

2016 W20 in CHINA (2016. 5. 24-26)

(仮訳)

日本政府代表(武川内閣府男女共同参画局長)スピーチ (ハイレベル・ミーティング)

議長、ありがとうございます。你好。

李源潮中国国家副主席及び瀋躍躍全国中華婦女連合会主席、並びに大臣を始め各国代表団の敬愛すべき皆様。W20のハイレベル・ミーティングにおいて、発言の機会を得ましたことに感謝いたします。また、G20議長国として、この素晴らしいフォーラムを主催していただいた中華人民共和国政府と全国中華婦女連合会に敬意を表します。

議長、

「女性が輝く社会」を築くことは、安倍内閣の重要課題です。女性がエンパワーされれば、社会全体が活性化します。日本は、女性の参画の推進を最重要政策と位置付けています。この3年間で、女性の就業者数が約100万人増え、また、上場企業の女性役員の数も、2倍近くになりました。

しかし、なお、私たちは女性の参画に立ちはだかる様々な障壁を除いていく必要があります。特に、日本においては、男性中心の長時間労働を前提とする働き方が最大の壁の一つです。本年3月、政府は、公共調達において、ワーク・ライフ・バランス等を推進する企業をより幅広く評価するための指針を決定しました。これは、完全実施されれば、5兆円規模の政府調達の事業が対象となり、企業が働き方改革を進める新たなインセンティブとなります。民間企業の調達にも、同様の取組を促していきますが、これは、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会によって加速されるでしょう。

さらに、本年4月からは、女性の採用や登用の促進に関する数値目標を入れた自主的な行動計画を策定し、公表することを雇用主としての企業と公的機関に義務付ける「女性活躍推進法」が完全施行されました。この法律は、これまでになく踏み込んでポジティブ・アクションを推し進めるものであり、我が国の雇用政策は新たな段階へと歩みを進めました。

議長、

日本政府は、世界で女性が輝く社会を実現するため、2014年から毎年、「世界女性会議(WAW!)」を開催しています。昨年は42か国と8国際機関から様々な分野の145名のリーダーが集まってくださいました。「女性と経済」と「グロ

一バルな課題」の二大テーマの下、参加者は様々な課題を議論し、いくつかの提案をまとめてくださいました。この提案は、「WAW! To Do 2015」と呼ばれる国連文書として発出されました。

昨年9月には、日本は、安保理決議第1325号の履行のため、「国内行動計画」を取り纏めました。武力紛争下の女性の保護、並びに紛争の防止や紛争解決、紛争後の復興における女性の参画といった分野で、日本はこれまでも長く積極的に取り組んでまいりました。今後、日本は、「国内行動計画」の実施を通じて、女性に対する人権侵害のない世界を創るため、そして「女性が輝く社会」を実現するため、国際社会をリードする役割を果たしてまいります。

議長、

最後に、明日から開催されるG7伊勢志摩サミットにおける女性の参画についての議事をご紹介します。

すべての政策分野における「ジェンダー主流化」の重要性は、SDGsの中でも認識されています。SDGs策定後初めてのG7サミット主催国として、日本は、首脳会合と全ての関係閣僚会合で「ジェンダー主流化」についてイニシアチブを発揮します。4月の広島外相会合においては、平和・安全保障における女性の役割の拡大並びに紛争下の性的暴力防止及び救済等について議論を行いました。情報通信大臣会合においては、ICTの活用による、男女の平等や女性の参画を含めた地球規模課題への対処について議論しました。そのほか、農業、教育、環境、科学・技術、財務等の大臣会合において、女性の参画が議論されました。明日のG7首脳会合においては、女性の参画に関して議論が更に深められるでしょう。

議長、御参会の皆様、

私たちは、G20諸国、国際機関、そして市民社会と連携し、女性の平等な参画の推進と実現に取り組んでまいります。

ご静聴ありがとうございました。